The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	インターネットとその学術研究活動へのインパクト
Author(s)	田村, 進一
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1996, 101, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66163
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

インターネットとその学術研究活動へのインパクト

大阪大学医学部教授　田村進一

E-mail: tamuras@image.med.osaka-u.ac.jp

通信とマルチメディアの発展をベースとして、インターネットが世の中の構造までも変革しようとしていることはご承知のことである。大型計算機センターの使命はスーパーコンピュータから情報ネットワークの中核へとシフトしつつあるのではないかと思われる。

そこで、センターニュースの特集としてインターネットを取り上げた。しかしながら、それが影響を及ぼす範囲は大きく、学術研究活動に絞っても特集記事が１号では納まりきらなくなってしまった。そこで、２号に分割することになった。本号では学術研究活動におけるインターネットの有効利用に的を絞り、次号ではもう少し具体的な利用者向け技術について特集する予定である。

教育、調査、研究、会議、学会、論文発表の流れに沿って、大学等の学術研究活動が行われる。インターネットはこれらすべての側面に影響を与えるものとなろう。そこで、本号ではこれらに関連する特集記事をその分野を代表する先生方にご執筆いただいた。いずれも、居ながらにして必要な多元的情報に即座にアクセスできるネットワーク機能や情報ブラウジング技術を活用したものであるといえよう。

研究は文献調べから始まる。論文を読み、引用文献を図書館などへ探しに行き、なければ取り寄せる。これらの足で稼ぐプロセスが研究のプロの現在のアイデンティティであるともいえるわけであるが、オンライン化されて関連文献の内容までもが即座に表示されるとしたら、”古いアイデンティティ”はなくなるかもしれないが、少なくとも原理的にはより創造的な部分に仕事を集中させることが可能になる。また、研究本体の支援に関しては知識共有、発想支援、遠隔機器使用などが考えられており、これらにもインターネットの果たす役割は大きい。

上に述べた学術研究活動の各段階はいずれも、仕事やビジネスなど世の中の各種活動と同じ基本構造を持っており、いずれも社会一般に相通じる話である。通信が資源（人知）の輸送コストと輸送時間を限りなくゼロにするインターネットは、社会自体の変革と新しいビジネスチャンスと新たな競争を生み続けるであろう。このように考えていくと、インターネットは無限の発展可能性を秘めており、それによる変革を想像するだけで楽しい思いがする。